様式2

令和6年度　清瀬市立芝山小学校　学校評価表

学校教育目標　公教育に携わる教職員としての職責を自覚し、一人一人が元気に輝き、確かな学力と豊かな心をもった自立する児童の育成を図るとともに、健康で安全な教育環境を整え、保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　子供の安全・安心を保障し、どの子にも居場所がある楽しい学校【安心】
保護者が安心して我が子を預けられ、保護者・地域とコミュニケーションを大切にする学校【信頼】
子供と共に学び、常にプラス思考で、教職員の専門性が発揮できる学校【充実】

【目指す児童・生徒像】よく考え、それをやり抜く子　より明るく、みんなと仲良くできる子　そして強く、心身ともに健康な子

【目指す教師像】職責を自覚し、個に応じた手立てをもち、他者からの助言を謙虚に学び、協働する教師

育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動

●自ら課題を見付け、自ら課題を解決していく力＝自学力　●他者とかかわる力＝かかわり力　●心身ともに健康に過ごす力＝健康力
①体育科等における授業改善（校内研究の推進）、食育、保健学習の充実
②清瀬市との連携した取組（図書館使った調べるコンクールへの参加、赤ちゃんのチカラプロジェクトの実施、認知症サポーター養成講座の実施）
③低・中学年の読み聞かせや図書館活動の充実等の全校読書活動の充実
④特別支援教室（きらり教室）と担任との連携による特別支援教育の充実
⑤全校縦割りグループを生かした学年交流の取組
⑥学校支援本部を中核とした保護者・地域との連携と開かれた学校の推進

前年度までの学校経営上の成果と課題

令和3年度は、言語能力の育成を図るための研究授業を行うとともに、読書の励行、俳句の創作、音読・暗誦による語彙力の向上、国語辞典の積極的活用など、言語活動の充実に取り組んできた結果、児童の言語への関心が高まり、理解力や表現力の向上が見られるようになってきた。また、令和4年度は、生活科・総合的な学習の時間、各教科等を通して、自ら課題を見付け、自ら課題を解決していく児童の育成（自学力の向上）につながる授業改善の視点を明らかにしてきた。令和5、6年度は、体力の向上等「健康力」に焦点を当て、体育科等における授業改善（校内研究の推進）、食育、保健学習の充実に務めてきた。各教員が「心身ともに健康に過ごす力」を目指して教育活動に取り組めた。

柱	具体的方策	自己評価			学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		評価 取組指標	評価 成果指標	課題及び次年度以降の改善方策（案）	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
確かな学力の向上	○学習端末の活用、学校図書館等の活用を推進し、学力の定着度を客観的に測定し、適切な評価を実施する。	3	4	○算数科では、東京ベーシックドリルの診断テストを活用して一人一人の理解度を確認した。今年度も、カリキュラムの工夫として、『4年生の特別少人数指導「ﾊﾟｰｼｯｸﾀｲﾑ」』を年間4回実施し、基礎基本の確実な定着を図った。 ○全学年で、学習の中に学習端末の活用を取り入れている。児童同士の考えを共有したり、調べ学習で活用したりと活用の幅が広がっている。また、学校図書館も適切に活用し、図書館を使った調べる学習コンクールに出品する児童も増えてきている。	・どの学年も全体的に落ち着いて学習に取り組めていて、1年間の成長を感じた。 ・先生方は学習中の児童の理解度をよく観察しながら、丁寧で分かりやすい言葉で指導していた。 ・発表や意見交換の場面では、自己評価や他者評価を取り入れていて、学びをなげ深める活動を意図的に行っていることが分かり、今後も継続していくことを期待する。 ・学習端末の活用については、互いの考えを伝え合い、理解し合う場面で効果的に活用できていた。	・確かな学力の向上をめざし、学習中の対話場面、相互評価の場面を意図的計画的に設定していくことで、一人一人の学習意欲の向上を図る。 ・学習端末タブレットは、文字を書いたり、本を読んだりすることと合わせて、学習内容と方法によって効果的な活用を目指していく。
	○宿題や家庭学習の提示の仕方を工夫し、自ら学習に取り組む態度を育成する。	4	4	○宿題は全学級で毎日取り組めるようにしている。その取り組み方やチェック方法については、学年間で多少の差が見られる。自学力を育てるための自主学習は中学年以上で積極的に取り組み、児童からは93%の肯定的回答があった。これは昨年度よりも向上している。しかし、保護者からは、約71%の肯定的回答にとどまり、昨年度よりも下がった。学年に応じた課題の量や取り組み方についても、ご意見をいただいているので、学校として情報を共有するとともに、さらに工夫していきたい。	・家庭学習は、学習の定着を図ることに加え、子供の生活リズムの中に学習を習慣化させていく意味で大切である。家庭学習の目的や取り組み方法など、保護者には十分に理解を得ながら、今後も進められるようにしたい。	・学習や宿題の進め方は、学年で共通理解のもと指導するとともに必要に応じて調整しながら進めていく。自主学習は、児童が自分に必要な課題を選択決定し、学び進める力を育むことができることを目的として、学習の基礎基本の定着を重点にしながら、発達段階に応じて実施できるようにしていく。
豊かな心の育成	○毎学期にふれあいアンケートやふりかえりアンケートを実施し、その分析結果を活用していじめの早期発見に繋げる。	4	4	○今年度も、年3回のふれあいアンケートを実施して、いじめに限らず、児童の悩み事や困り事について、未然防止と早期発見に努めた。児童は約91%の肯定的回答があったものの、保護者からは「分からない」という回答が15．4%と昨年度からの21%に比べ若干の改善はみられたものの、依然として高い数値であることに変わりはない。今後も学校が取り組んでいる内容にについて、情報発信・啓発の工夫が必要である。	・学習場面では、認め合う場面設定があり、自己評価とともに他者評価も行ってきたことの成果が見られた。学校生活全般を通して、日常的な指導、日々の積み重ねが児童の自己実現につながっていく。 ・児童は様々な場面で悩むことがある。学校は児童や保護者が相談できる体制をつくり、今後も丁寧な対応を組織的に行っていくことが大切である。	・人権教育は、本校の指導の重点として取り組んでおり、今後も児童が自分のことと同じように他者を大切にする心情や態度の育成を目指していく。道徳科の授業をはじめ、教育活動全体を通して、相手を思いやる気持ちや互いに認め合うことについて児童自身が自分事として考え実践できるよう日々指導を重ねる。児童の悩みや困り事は、家庭と連携して解決できるよう努めていく。
	○毎学期の挨拶運動の実施とふれあい班活動を計画的に実施する。	4	4	○あいさつ運動は、代表委員会の児童を中心に計画通り行うことができた。活動方法を工夫するなど、主体的に活動できたことは、全校児童の意識付けにつながった。ふれあい班活動は、計画通りに実施することができ、異学年交流の充実が、互いにかかわる力の向上がつながったことは、児童アンケートの約90%の肯定的回答からもうかがえた。	・地域で子供たちに会うと「こんにちは」と、元気な挨拶を聞くことができる。教育活動の中で、意図的なあいさつ啓発運動に取り組んでいることは、子供たちに確実に伝わっていると感じる。あいさつは生活の基本であるので、学校内外を問わず、今後も自らあいさつができる子供たちを育てていってほしい。	・あいさつ運動は、児童の主体的な活動であるので、よりよい活動になるように児童会を中心に取組を工夫して実施していく。 ・年8回のふれあい班活動は、望ましい人間関係を築き、互いに思いやりの心を持ちながら活動することができるよう、担当教員の指導のもと高学年を中心に計画的に実施していく。
健やかな体の育成	○安全点検、安全指導、避難訓練を工夫・改善し、計画的に実施する。	3	4	○安全点検は計画的に行い、修理・改善が必要な箇所について迅速に対応できたことは、学校生活の安全につながった。避難訓練は様々な場面を想定し、全校児童が校庭に集まって実施した。消防署との連携では、「煙体験」や「起震車体験」を実施したり、消防署の方々に避難訓練の様子を見ていただいたりした。児童に直接話をしていただき、児童の避難訓練に対する集中力が高まったことで、児童・保護者ともに93%以上の肯定的な回答があるなど、よい評価につながった。来年度は、本校を会場に「清瀬市水防訓練」を実施するので、地域と連携した活動にしていきたい。	・学校生活において「安心・安全」な環境を保つことは、とても大切である。教育活動全体で意図的計画的に安全教育を推進していくためには、様々な関係機関との連携は欠かせない。今後も学校・家庭・地域が協力して推進していくことを大切に、教育活動を進めていく。	・今後も毎月の安全指導日では、生活安全・交通安全・災害安全・不審者への対応について、年間計画を立てて指導していく。また、消防署や警察署、外部団体と連携した体験的活動やセーフティ教室の実施を通して、児童の安全意識を向上させるとともに、家庭とも連携できるよう情報を発信に努めていく。
	○体育科等の学習や休み時間を通して、児童の健康・安全への意識を高め、体力の向上を図る。また、担任と栄養教諭で連携して、食育の充実を図る。	2	4	○健康力の向上を育成の柱として、体育科及び食育で授業実践に取り組んだ。体育科では「運動する楽しさを実感できる体育の学習」を研究主題とし、自己選択・自己決定の大切さを押さえた指導を展開することで、運動の楽しさや喜びを味わうことにつなげることができた。今後は、体力テストの結果分析を客観的データとして、個々の体力や運動に取り組む姿勢について、児童の実態を分析し、授業や業間の取組を意図的計画的に行うことで健康体力の向上につなげたい。	・校庭には子供たちが元気に遊ぶ姿があり、楽しそうな声が聞こえてくることは、微笑ましく安心する。健康力の向上をめざして、体育授業の充実と運動遊びの日常化を意図的に推進することを継続し、食育の側面からも子供が健康について自分事として考え、実践していけるよう、学校での実践と同時に、家庭との連携も大切にしていきたい。	・健康力の向上をめざし、児童が運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、体育科の授業実践の充実を図る。また、休み時間の運動遊びや年間計画に基づいた運動キャンペーンの実施を行う。 ・食育について、日々の給食指導では担任及び栄養士の食育指導の充実を図るとともに、学校全体で取り組んでいる「完食チャレンジ」の継続など、活動実践と結果のフィードバックを積み重ねていくことで、知識と実践力を身に付けられるようにする。
特別支援教育の充実	○きらり担任と学級担任との連携を強化することによって、個に応じたきめ細かい指導の充実を図る。	3	3	○特別支援教室の担任と全教員の情報交換は職員夕会（生活指導）の時に行った。全教職員で情報共有することで、個に応じた指導について組織的に対応できた。学級担任との日常的な情報交換は、休み時間や放課後に行った。時間設定としては十分ではないものの、特別支援コーディネーターが積極的に情報共有するなど、迅速な対応ができた。特別支援教育について、保護者アンケートは、19．2%が「よく分からない」と回答しており、学校からの便りやHPを活用してさらに周知していくことが必要である。	・きめ細かい指導の充実を図るためには、特別支援教室担当教員と学級担任との連携は大切である。また、保護者に理解を得ながら進めるためにも、今後も学級公開や保護者会の開催を継続していく。それに加えて、情報の発信方法を工夫することで理解を広げ深めて行けるようにしていく。	・次年度も職員の会議や特別支援校内委員会で、児童の様子について情報共有するとともに、日々の連携を密にすることで、児童一人一人の課題や成長について理解を深めていく。学校の特別支援教育の取組がより伝わるように、授業公開や説明会、学校便りを通した情報発信を継続していく。
	○SCだより、SCと5年生全員面接、各相談機関の周知、個人面談や相談週間実施等、児童・保護者の相談できる環境を整えていく。	3	4	○年間10回を超える特別支援校内委員会は組織的計画的に実施することができ、関係者で共通理解を図った。教員が日々児童の話を聞くことや、随時実施している保護者との面談、SCによる5年生全員面接及び年間を通した保護者面談の実施など、相談できる環境づくりに努めたことで、児童・保護者からは、80%以上の肯定的回答があった。アセス（学校環境適応尺度）を年2回実施し、学校全体の児童理解及び学級経営・教科経営に生かすことができた。	・学校全体で取り組む特別支援教育は、情報の共有が大切であり、組織的に支援体制を組むことが必要である。そのためにも、面接や相談を通して把握したり、アセスなどの調査によって把握したりするなど、様々な方法で児童を理解するための取組を今後も行っていってほしい。	・児童の実態を把握するためには、日々の行動観察と児童との直会話及びいつでも相談できる環境づくりを大切にする。また、アセスやふれあいアンケートの結果から把握できることや面接を通して聞き取れることなどをあわせて、職員間で情報を共有する。具体的な対応について検討し。家庭とも連携を図って組織的に手立てを講じることができるようにする。
本校の特色	○近隣小中学校教員と話し合いを進め、小中学校で協力してできる教育活動の充実を図る。	2	1	○小中連携教育は、今年度実施した活動を土台として、「郷土（地域）を愛する子供たちを育成する」ために、持続可能な取組を実践していく。そのためにも、コミュニティ・スクールを核として、家庭・地域社会と連携を高め、活動への理解・協力、情報の発信を積極的に行っていきたい。	・地域に住む子供たちにとって、地域を愛する心情を育む活動は、今後も大切にしていきたい。小中連携教育活動は、これからも様々な実践活動を行うと思うので、学校間だけでなく、家庭・地域と連携した活動に広げていけるとよいと思う。	・今年度は、四中校区の小中学校で、教員間の授業公開や児童生徒同士の交流体験活動を行った。次年度は、今年度の活動について工夫改善を行い、さらに家庭・地域との連携を図っていくことで、児童の地域を大切にする意識の向上につなげていきたい。
	○学校だより、学年だよりの他、学校ホームページ、学級だより、メール配信等で、学校からの情報を発信していく。	2	4	○情報発信ツール「ホームアンドスクール」を活用し、緊急な予定変更を含めて、教育活動について迅速な情報発信を行うことができた。保護者、地域の方々には、制限を設けることなく来校していただく機会が増え、教育活動の理解・啓発につなげることができた。また、児童の様子については、ホームページの「校長室より」を通して伝えており、保護者からは、91%の肯定的回答があった。今後もホームページや各学年・学級だよりを活用して、児童の様子を伝えることについて充実させていきたい。	・教育活動の理解・啓発の方法は様々ある。ホームページを毎週更新し続けることは、確実に保護者・地域の方々の理解につながる。各種お便りに加え、さらに情報配信ツールの活用は、必要な連絡をすぐに確認できることから今後も有効活用につなげたい。	・次年度も教育活動における学校の取組や児童の様々な場面を紹介していくことで、保護者・地域の方々の理解につなげていく。